

令和7年度「史学展開演習Ⅰ」事前登録ガイドンス

史学科の学生は、3年次前期に「史学展開演習Ⅰ」、後期に「史学展開演習Ⅱ」を履修します。これらの授業は、希望優先方式の事前登録制をとっています。以下の方法により希望を受け付けますので、履修を希望する演習を申請してください。

- ◆登録期間:令和6年12月21日(土)~令和7年1月20日(月)23:59(厳守)
- ◆登録方法:Microsoft Forms 登録画面にしたがって必要事項を入力
- ◆登録内容:①履修を希望する演習(第1~第4希望まで1つずつ選択)
②選択した第1希望、第2希望の演習の志望理由(各100字以上200字以内)
③3・4年次を通じて研究したいテーマ(参考文献を示した上、800字以上1000字以内)

※選考は、今年度前期までの累積GPA、志望理由、研究テーマをもとに行います。

- ◆結果発表:2月中旬(予定)

【登録上の注意事項】

- ◇ 登録期間内に登録を終えなければ、希望通りに履修できない可能性があります。
(登録画面上の【送信】ボタンをクリックして登録を完了してください)
- ◇ 教務課には閉室日があります。問い合わせの際は確認してください。
- ◇ 3年生に進級できなかった場合、登録は取り消されます。
- ◇ 「史学展開演習Ⅱ」は「史学展開演習Ⅰ」と同じ教員の授業を履修します。

次年度の「史学展開演習Ⅰ」については、次ページ以降に記載される授業が開講されます。履修に際しては、授業内容をよく理解したうえで登録希望を出して下さい。

※“兼ゼミ”について

「履修要綱」にあるように、「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」・「史学応用演習Ⅰ・Ⅱ」(4年次)は、複数の同時履修が可能です。開講される演習のうち、定員(20人前後)に余裕があるものについては、結果発表のあとに追ってお知らせいたします。希望する者に対しては、担当教員が直接面談を実施し、受入れの可否を決定します。

登録方法:Microsoft Forms

<https://forms.office.com/r/IVa4TNQeTT>

時間の設定あり

【史学科】令和7年度「史学展開演習Ⅰ」登録フォーム



史学科ガイダンス資料

史学展開演習 I

No.	コース・分野	担当教員	授業テーマ
1	日本史学・古代史	山崎雅稔	日本古代の史資料と研究
2	日本史学・古代史	佐藤長門	『日本三代実録』を読む
3	日本史学・中世史	高橋秀樹	中世史料を読む(1)
4	日本史学・中世史	相馬和将	室町・戦国・織豊期の古文書と古記録
5	日本史学・近世史	吉岡 孝	日本近世史の研究史整理と卒論テーマの選択
6	日本史学・近世史	岩橋清美	日本近世史の研究法と史料
7	日本史学・近現代史	柴田紳一	日本近現代史を研究する学力を身につける
8	日本史学・近現代史	手塚雄太	日本近現代史研究
9	日本史学・近現代史	多和田真理子	日本近現代史の研究法を学ぶ
10	外国史学・東洋史	江川式部	東アジアの歴史世界—制度・社会・文化—
11	外国史学・東洋史	樋口秀実	東アジア史・東南アジア史研究
12	外国史学・西洋史	大久保桂子	西洋近世・近代史研究
13	外国史学・西洋史	神長英輔	西洋近代・現代史研究
14	外国史学・西アジア	石丸由美	西アジアの歴史と社会
15	考古学	中村耕作	先史考古学の資料と研究法
16	考古学	青木 敬	古墳時代・古代の考古学と研究法
17	地域文化と景観	赤松加寿江	地域文化と景観の調査分析方法を学ぶ：日本とイタリアを対象に
18	地域文化と景観	川名 禎	地域文化と景観研究に関わる地域調査

授業内容（史学展開演習Ⅰ）

日本史学・古代史	山崎雅稔
<p>この演習は、飛鳥・奈良・平安時代前期の文化、経済、地域、宗教、国際関係などを研究し、卒業論文の執筆をめざす学生を受け入れます。授業では、六国史をはじめとする基本史料の読解を軸に、歴史事実の復元、歴史事象の政治的・社会的背景の検討をおこないます。その過程で、先行研究の整理と課題の析出、通説批判の方法を身につけていきます。</p> <p>卒業論文のテーマによっては、出土文字資料（木簡）・金石文、寺社縁起、仏教説話、貴族の日記、文学作品を扱います。考古学の知見をふくむ、中国・朝鮮半島の史資料にも目配りが必要です。それぞれの史料の特性について理解し、後世の写本・刊本等の文字の異同等にも注意しながら研究を進めて、通説を検証しつつ、新たな史実とその論証の可能性を追及します。</p> <p>授業と夏・春の合宿を通して年間4回以上の報告を行います。みなさんには、報告の準備とともに議論への積極的な参加を求めます。他の受講生の研究にも関心をはらって、日本古代史の全体像の理解に努めましょう。</p> <p>政治史や王権論、儀式・貴族社会について研究したい人は、佐藤長門先生の演習を選択してください。また、日本古代史で卒業論文を書く人は、「史料講読Ⅰ・Ⅱ」（山崎）・「史学専門講義」（十川・清武）、「地域からみた日本史Ⅰ」（中大輔）を履修してください。</p>	

日本史学・古代史	佐藤長門
<p>この演習は、日本古代史で卒業論文を提出しようとする3・4年生を対象として、奈良時代～平安時代の諸問題を解明するための基礎力・応用力養成を目的とするものです。テキストには六国史の最後にあたる『日本三代実録』を使用し、必要に応じて律令格式や儀式書などを併用しつつ、履修生各自に割り当てた箇所を読み下しと人物・事項の解説などをおこなってまいります。なお来年度は、元慶5年10月13日条の途中から読みはじめます。前期は主として4年生の発表が続きますので、3年生には授業のほか月ごとに山川出版社「日本史リブレット」「日本史リブレット人」から1冊を選んで論評するレポートを提出してまいります。研究テーマは人から与えられるものではなく、積極的・能動的にみずから探し出して見つけてくるものです。したがって学生諸君には教室内での学習のみでなく、学内外で催される研究会やシンポジウム、博物館での展示会などにも意欲的に参加することを望みます。</p>	

日本史学・中世史	高橋秀樹
<p>鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』は明治時代以来、日本中世史研究の基本的かつ最重要の史料とされてきた。中世史料に一般的な和風漢文体（変体漢文）が「吾妻鏡体」とも称されていることは、『吾妻鏡』の読解が、中世史料全般に通じることを意味している。この授業では、諸本の校合、翻刻というテキストの扱いの基本から、史料の性格を踏まえての内容解釈、公家日記などの関連史料を合わせ読むことでの多角的・多面的な歴史像の構築など、史料の扱いや中世史研究の手法を実践的に学ぶ。『吾妻鏡』の最善本である吉川史料館所蔵本の写真を主たるテキストに用い、頼経將軍記を読む予定である。</p>	

日本史学・中世史	相馬和将
<p>1・2年次の基礎的な演習で得た様々な知識をもとに、室町～織豊期に時期を限定して史料読解の演習を行う。対象とする素材は、主に武家社会においてやり取りされた古文書とする予定である。ただし、中世社会の復元のためには、多種多様な史料に関する理解が必要である。よって、公家衆や寺社が書き残した古記録などの史料の扱い方に関しても、十分に時間を割いて取り組んでいきたい。</p>	

日本史学・近世史	吉岡 孝
<p>本演習は、日本近世史、主に政治史・外交史・思想史などを対象に、卒業論文の執筆を希望する学生を対象とする。受講者は、各自卒論テーマの選択に向けて、関心のある日本近世史の学術論文を検出し、その論文を精読して、レジュメにまとめ報告・討論する。報告にあたっては、当該論文の内容構成はもとより、引用史料の読み方、取り扱い方・分析手法について、丹念に読み込む必要がある。また、当該論文の関連研究を踏まえて研究史上の位置づけや評価・課題・疑問点などについて報告してもらいたい。報告・討論を通じて、日本近世史の研究の方法・研究史・諸史料について知り、卒論テーマの選択に役立ててもらいたい。</p>	

日本史学・近世史	岩橋清美
<p>本演習は、日本近世史、主に経済史・社会史・文化史・地域史などをテーマに卒業論文の執筆する学生を対象とする。各自、卒業論文作成にあたり、論点に関わると思われる重要な論文を複数準備し、その内容をレジュメにまとめて報告を行う。報告については以下の3点を重視する。第一に、論文の引用文献をできる限り精査し、史料の解釈が的確であるか、論旨に合致しているかを再検討する。第二に個々の検討をふまえて論文の構成や論理展開が妥当であるかを考える。第三にこうした研究論文の検討を通じて、自己の卒論テーマと論点を明確にし、執筆にむけた具体的な史料調査の方向性を決定する。本演習では、履修者が主体的に学ぶことを重視するため、他の報告者の発表に対しても積極的に発言し、日本近世史に関する知識を深めてもらいたい。</p>	

日本史学・近現代史	柴田紳一
<p>この演習は、日本近現代の主に政治・外交・軍事、及び天皇・皇族をテーマとした卒業論文の執筆を希望する学生を主たる対象とします。</p> <p>1・2年次を通して身につけた基礎的学力を更に展開させ、より高次の史料・研究を読解し、報告を通じてゼミ参加者全体に自らの見解を披瀝し問題意識を共有し、自らの関心を高め、分析力・研究力を身につけ、まず卒業論文1次題目につながる各自の課題を設定していくよう、演習を進めていきます。</p> <p>課題設定、調査分析、書類作成、質疑応答を重ねることで企画力や説得力を会得し、ひいて実社会で求められる諸能力を準備できます。</p> <p>日本近現代史には多種多様で多面的な研究課題があります。そのため前期には、「大東亜戦争」戦時下の優れた記録で、日本近代史の縮図ともいわれる、清沢洌（きよさわ・きよし、外交評論家・外交史家）の内容豊富な『暗黒日記』を中心に授業を進めます。</p>	

日本史学・近現代史	手塚雄太
<p>この演習は、日本近現代の主に政治・経済・社会、及び地域をテーマとした卒業論文の執筆を希望する学生を主たる対象とします。</p> <p>前期は、みなさん自身が関心のある複数の学術論文について、研究史上の位置づけや関連性を踏まえながら紹介をするという形で授業を進めます。論文講読を通じて、卒業論文の方向性を定めます。後期は、卒業論文のテーマに関わる史料について、広く調査した上で、興味深い史料の歴史的背景・意味などについて報告してもらいます。史料は受講生全員で毎回輪読します。史料読解を通じて、研究に不可欠な知識・認識、及び史料の適切な読解力を培ってもらいます。ゼミは3年生と4年生で別で行っていますが、4年生の卒論報告を聞く機会を設けます。</p> <p>例年、受講生の関心は多岐にわたるため、各自の自主性を重んじて特定の文献・史料を定めることはしません。その分、みなさんには積極性・主体性を求めます。これは報告時だけでなく、他の報告者の報告を聞くときも同様です。また、複数回のレポート執筆を通じて、卒業論文に必要なスキルを段階的に身につけていきます。</p> <p>このほか、博物館展示の見学、史料の調査や編さんの現場を見学する機会を設けます。知的好奇心旺盛な学生の積極的な参加を望みます。</p>	

日本史学・近現代史	多和田真理子
<p>この演習は、日本近現代の主に教育・社会・地域に関するテーマで卒業論文の執筆を希望する学生を対象とします。</p> <p>3年前期は、みなさん自身の関心あるテーマにもとづき学術論文を探して精読し、内容紹介と考察を含めて報告してもらいます。後期は、卒業論文のテーマに関わる史料を調査しそこから1～2点の史料を精読して、詳しく内容紹介をしてもらいます。</p> <p>本演習では、授業時間の取り組みを重視します。自身の報告を通じて研究を深めるのは当然のことですが、他の報告者の報告を通じて視野を広げてほしいと思います。日本近現代史のテーマは多様であるため、教員から共通の文献・史料を提示し講読する形はとりません。そのかわり、演習での議論に積極的に参加し、自分自身の知識を深め、スキルを身につけてください。</p> <p>もちろん、みなさん自身の研究を進めるには、演習の報告だけでは足りません。授業外の時間の取り組みも重要です。段階的に課題を出しますので、こちらも主体的に取り組んでください。</p>	

外国史学・東洋史	江川式部
<p>本演習は、中国古代～近世史に関する事象をテーマに、卒業論文の執筆を目指す者を対象とします。具体的には、以下の1～3を総合的に行います。</p> <p>1、史料読解：北宋・司馬光撰『資治通鑑』を選読し、そこに書き込まれた制度・社会・文化の諸相を読み解きながら、当該時代の中国とその周辺地域の歴史に対する知識と関心を拡げる。</p> <p>2、研究テーマの選択：①仮テーマの選定→②テーマに関する研究概要の整理→③研究動向の把握・先行研究の問題点の整理を順に行うことにより、自分の問題意識をより具体的なものにする。</p> <p>3、研究発表と討論：ゼミ内での研究発表を行い、質問に対する回答や討論を通して、自身が抱く問題点を整理し、論文の方向性を固めていく。</p> <p>履修に当たっては、漢文史料を読むことが好きかどうかと、自分は中国の歴史に関心があるか、をよく考えて受講してください。歴史世界に共感を持つことができるかに関わる大切な要素であり、卒論に取り組む際の原動力になります。</p>	

外国史学・東洋史	樋口秀実
<p>この授業は、来年度、中国・朝鮮・台湾・日中及び日朝関係などを含んだ東アジア地域、あるいは東南アジア地域の歴史的諸問題をめぐって卒業論文を書いてみたいという学生を対象とするものです。授業のなかで皆さんに具体的にやってもらうのは、①複数の論文を講読し、それらの比較・分析・批判（すなわち、研究史の整理）をしたうえで、論文の題目となるべきテーマを具体的に設定する、②それぞれの興味に応じて課題を探し出し、それについて調査・報告を行なう、③以上の内容を下敷きにして複数回のレポートを執筆する、の三つです。授業の最終的目標は、これらの作業を通じて、卒業論文の「設計図」をつくることです。なお、授業は皆さんの報告を主体に、皆さんを主役として進められます。教員である私の役割は、あくまでもアドヴァイザーの立場から、皆さんに助言する程度にとどめるつもりです。この演習において皆さんに希望することは、毎週の授業に積極的に参加し、少しうるさいくらいでいいですから、自分自身の意見を自分自身の言葉で述べることです。</p>	

外国史学・西洋史	大久保桂子
<p>西洋史の近世・近代（16～19世紀）を対象とする演習。扱う地域は、北西ヨーロッパ、南ヨーロッパ地中海世界、および大西洋世界（アメリカ～西ヨーロッパ～アフリカ）を中心とする西半球である。授業では、学生各自の研究テーマを絞り込む目的で、受講生各自が関心をもつテーマについて、研究史を中心とする研究報告をしてもらう。並行して英文文献の講読をおこなう。今年度は、近年話題となっている Atlantic history（大西洋世界史）に関する最新の英文文献を読むことにする（テキストはコピーを配布する）。</p>	

外国史学・西洋史	神長英輔
<p>この演習は、西洋近現代史を主題として卒業論文を執筆する方を対象とし、西洋近現代史に関わる専門的な研究の方法を学ぶことを主な目的とします。受講者は、西洋近現代史を主題とした指定様式での研究報告、報告前のペーパー提出、毎回の授業での発言を義務とします。報告では、自分で選んだ学術論文を手がかりにして自分で問いを立て、自分で入手した史料を読み解いてその問いに答えを出してください。また、これとは別に、前期の初めには、西洋近現代史の基礎的な概説書としてエリック・ホブズボーム『20世紀の歴史 上・下』を講読し、後期の初めには、受講者で話し合っ選んだ西洋近現代史の英語論文を講読します。</p>	

外国史学・西アジア	石丸由美
<p>この演習は、将来西アジアの歴史をテーマに卒論を書くための出発点となる授業です。論文を書くためにはまず自らの興味を知らなければなりません。そこから問題意識を明確にし、テーマを設定し、調べ、論文という形にまとめるということになります。この授業ではこうしたことを一つ一つ指導していきたいと思ひます。まず自らの興味から「問題をどのように設定するか」「どのように調べるか」「どのような論を展開するか」、さらには工具類（辞書、地図、文献目録など）の使い方、関連論文の探し方など、論文作成に必要なことがらを学ぶことになります。最初数回の講義形式の授業の後、受講者にテーマを設定し実際発表していただく形で授業を進めていきたいと思ひます。まずは4年生の卒論発表と学期末には3年生の発表を予定しています。そのほかにテキスト（英文、和文）の講読を中心に行っていきます。</p>	

考古学	中村耕作
<p>日本列島の先史時代（文字史料がまったく無い時代・文化）をテーマとして、先史考古学のさまざまな資料と基礎的な研究法について学ぶ。縄文時代を中心として、旧石器時代から弥生時代までの先史文化、および北日本地域・南島地域の無文字社会が対象となる。現在の先史考古学は、資料の型式分類・編年などの基礎研究にとどまらず、生業・技術・経済・社会・観念などへと研究の関心が広がり、文化・社会・歴史の総合的理解へと深化している。</p> <p>この演習では、後期開講の史学展開演習2と合わせて、①論文の読み方・書き方、②研究テーマの設定、③研究史と課題整理、④卒業論文中間報告、の演習課題に順次取り組みながら、各自の卒業論文研究を具体化していく。初回の授業時に、授業計画と到達目標について説明するとともに、推奨する入門書・概説書および精選論文リストを配布する。</p>	

考古学	青木 敬
<p>主として古墳時代および古代（飛鳥時代・奈良時代・平安時代）や、並行する時期の中国や朝鮮半島を対象として考古学の基本的な方法論を、発表と質疑応答から身に付ける。上記の時代や地域を対象とした先行研究は多数にのぼる。その中でも、①すぐれた研究論文や学術図書を縮約し、批判的に読解していくことで学術論文を読みこなす技術を身につけ、②複数の論文を対比させながら論点を明確にする（前期）。さらに、③受講生が取り組みたい研究テーマに関する先行研究をまとめ、研究の到達点と課題をあきらかにし、④自らがおこなう分析への展望を示す（後期）。なお受講生は、発表および発表に対する質疑応答への積極的参加を必須とする。</p> <p>また発表以外にも、実物の考古資料からどのように情報を読み取るか、資料観察の機会も適宜設けたい。受講生はこれら課題の発表や討論、資料に向き合う方法を身に付けていく機会を通じて、卒業論文で取り上げるテーマの設定や、対象資料の選定、資料の分析手法の基本を身に付けることを目指す。</p>	

地域文化と景観	赤松加寿江
<p>本演習は、地域文化と景観をテーマとする卒業論文の執筆のために必要な調査方法を習得することを目的とします。論文テーマを設定するために不可欠な先行研究の批判的読解と課題設定、多様な史料群の把握と活用する方法を学びます。前半は方法を学ぶ「方法論編」として、イタリアと日本の2地域を対象に、地形図、古絵図、古地図、GISの活用に加え、建築史料を活用するため実測や図面を読みとるスキルを鍛えます。中盤は「実践編」として受講生全員で取り組み、グループワークで景観の読解を進めます。現地調査に先立ち、先行研究と史資料の理解を深め、現地調査では簡易的な3D調査や聞き取り・実測等を行った後、グループごとに分析を行い、地域文化の特質の解明、景観の復元を目指します。後半は個人ごとにテーマを設定し、論文としての分析、「展開編」として演習発表をしてもらいます。以上を通じて、研究方法や分析のための論理構築を学び、各々の研究論文へとつなげていけるように進めます。</p>	

地域文化と景観	川名 禎
<p>この演習は、地域文化と景観コースにおいて卒業論文を作成する上で必要となるスキルの習得を目的としています。卒業論文の作成にあたっては、研究史の課題、史資料の活用、分析方法、論理的展開など様々な点について学ぶ必要があります。そこで個人で取り組む研究テーマと全体で取り組む研究テーマとを設定し、相互に関連させながら研究の基礎を受講生全員で一緒に学んでいきます。後者においては、ひとつの地域を取り上げ互いに協力しながら現地調査を行い、様々な歴史地理学的な調査方法を学びます。その際に地形図、絵図、古文書、金石文、伝承などの史資料についての理解を深めるとともに、それらを活用した景観の復原や地域の解明を目指します。</p> <p>また、城下町や村落などの景観を観察する巡検（現地観察）を開催し、様々な景観の見方について学んでいきます。こうして習得した歴史地理学的手法や考え方を、それぞれの研究に生かすことができるよう指導して参ります。</p>	